

## 見えなかったものが見えるように

内海 紀子

はじめまして。君津市在住の内海紀子（ウツミノリコ）と申します。入会したのは10年以上前ですが、観察会に出たり出なかったり、きのこの名前を覚えたり忘れたりと細々と参加させていただいております。

きのこに興味を持ったきっかけは、当時の職場が微生物を扱っている施設で、きのこ好きな方がいらっしやっただけです。自宅近くの土手に何だか



わからない物が生えていて職場へ持って行くと、人がワイワイと集まってきました。「アミガサタケですね」「大きいのが採れましたね」「図鑑を持ってきて）これですよ」。不思議な高揚感を味わい、この職場ではきのこを採ってくるだけでこんなに場が盛り上がるのだと、すっかり楽しくなっていました。

それ以来、昼休みに近所の公園へきのこを採取しに行ったり、孢子紋の取り方・顕微鏡での観察の仕方を教えていただいたり、お勧め図書を貸してもらったりして、少しずつきのこの名前を覚えていきました。

きのこのことが分かるにつれ、信号待ちで立ち止まったところの看板の足元に生えているとか、建物に入ろうとして何気なく土手に目をやると生えているとか、様々なきのこ

が目に入るようになってきました。「知る」ということは「見えるようになること」なのですね。

今まで何気なく歩いていた道ばたには、実はこんなにも色々な形をしたきのこが生えているということが驚きでした。

最初の出会いがアミガサタケだったこともあり、毎年春先になるとその発生が気になります。暖かい日が続く3月下旬に地面からポッチリと可愛い頭を出していると目が離せません。気温が安定しない時期なので、冷たい雨が続くと大きくなれないまま朽ちてしまうこともあり、桜の開花と同様、気を揉む春の風物詩です。さて、今年はどうでしょうか。



アミガサタケとタンポポ、好きな組み合わせです